

第1章 千田学区の概況及びまちづくりの現状と課題

1 学区の概要

(1) 千田のうつりかわり

千田学区は福山駅の約4キロ北部に位置し、西を芦田川、北を高屋川が流れ、西と東は蔵王山に連なる丘陵に囲まれた、日当たりのよい盆地です。

少し前までは、大雨が降れば大沼田になる地域(千田沼と呼ばれた)でしたが、住民は工夫を重ね、米・麦・野菜を中心とする穀倉地帯として栄えてきました。

私たちのふるさと千田は、古くは備後国深津郡中海郷と呼ばれていました。

千田沼のことは今から約800年前の本に、つぎのような和歌が残っています。

早苗取る 千田の村人袖ぬれて ほすまもあらぬ 五月雨のころ(続 松葉集)

この歌は、千田沼の移り変わりを知る上で、たいへん参考になります。大雨が降ると、四方の丘から流れ出てくる水で、千田盆地が沼のようになっていたことがうかがえます。

1871年(明治4年)の廃藩置県により福山藩がなくなり福山県となった後は、県制が混乱した時代であり、深津県、小田県、岡山県、広島県という沿革をたどり、1889年(明治22年)の町村制施行により、千田・藪路・坂田の三村が合併して深津郡千田村となり、1898年(明治31年)郡の統合により深津郡と安那郡を併せて深安郡となったので、深安郡千田村となりました。

1956年(昭和31年)福山市に合併し、福山市千田町・横尾町・藪路町・坂田町となりましたが、翌年、藪路町・坂田町は千田町大字藪路・大字坂田となりました。

合併時の人口は、3,880人、世帯数は755世帯でした。

昭和30年代中頃までは、田園風景のひろがるのどかな地域でした。

1960年(昭和35年)長年の宿願であった農地改革と排水対応のための、土地改良区団体営圃場整備事業が始まり、水田は矩形に整備され道路と水路に接した素晴らしい美田に変わりました。

1967年(昭和42年)国道182号バイパスが神辺町宇治山(蓮池)まで開通しました。

1960年代後半から、田んぼの宅地造成が行われ、住宅が建設され始めました。

1972年(昭和47年)盈進学園の移転、千田鉄工団地の造成があり、その後も横尾、緑陽、清水ヶ丘などの土地区画整理事業が行われ、地域は急激に変化しました。

1976年（昭和51年）大水害を受け、都市排水対策を最重要課題と位置付け要望活動を行いました。市街化調整区域であったため、活動は進展しませんでした。

このため、住民の賛同・協力を得る中で市街化区域変更の取り組みを行い1982年（昭和57年）市街化区域の指定（※第1種低層住居専用地域）を受けました。

1985年（昭和60年）再度の水害を受け、この課題解決に向け更に運動を集中し、これまでの運動の経過もあり、翌年から、都市排水対策として、水路改修と排水機の設置工事が始まり、1990年（平成2年）完成しました。

その後、水害はありません。（停電による排水機の一時運転停止を除きます）

1991年（平成3年）山陽自動車道が開通（福山西ICまで）、市街化区域への変更後、都市化の波が押し寄せており、多くの田んぼが宅地と変わり田園地帯の面影は薄くなっています。

なお、山陽自動車道関連事業と位置付け、干塚池を有効に活用する方向で取り組みがなされ、一部を埋め立てて運動場（10,000㎡）が整備され、地域の行事、スポーツ等に利用されています。

※ 第1種低層住居専用地域

都市計画法による12種類の用途地域の一つで、最も厳しい規制がかけられています。

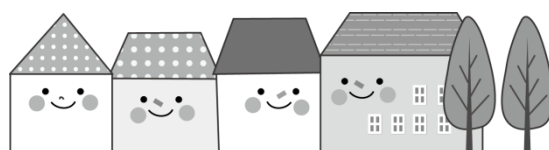
良好な住環境を有する低層住宅地の形成を図る区域で、低層住宅に係る良好な環境を保護されるために定められた地域です。

この地域には、低層住宅のほか店舗兼用住宅などの住居施設や、住宅地として地域社会に最低限必要な教育施設、医療施設、公共施設以外は建てられません。

福山市の場合、建物の高さの限度は10mに定めています。

この地域では原則として建ぺい率は40%、容積率は80%です。（地区計画により制限の違う区域があります。）

千田町2丁目、3丁目のうち、国道182号、313号の沿線を除いた地域が、この用途地域となっています。



(2) 学区の世帯数・人口

年次	世帯数	人口
1956年(昭和31年)	755	3,880
1965年(昭和40年)	814	3,749
1975年(昭和50年)	1,652	6,301
1985年(昭和60年)	2,536	9,126
1995年(平成7年)	2,820	9,887
2005年(平成17年)	4,155	11,360
2015年(平成27年)	4,766	11,662

各年 3月31日 現在



ふるさと盆踊り大会



地域ばら花壇づくり



わくわく農園(田植え)



マラソン大会

2 アンケート調査からみる現状と課題

このたび実施した「アンケート調査」などから、次のような意識と期待がうかがえます。

(1) 千田の現状と課題

1) 千田の現状

(ア) かつて、のどかな田園地帯でありましたが、1982年(昭和57)年市街化区域となっところから市街化が進み、今では田んぼは少なくなってきた。

27%の人が自然環境が良いと感じており、71%の人が、ぜひ住み続けたい、出来れば住み続けたいと思っている。

(イ) 近所づきあいがしやすいことや、防犯・防災の面で比較的安全だと思っている。

(ウ) 人口は、約11,600人であり高齢化率は25%と、過去10年間で6%増加している。

2) 千田の課題

(ア) 住みにくいところとして、買い物に不便、交通の便が悪いと感じている人が40%おり、9%の人が地域の行事が多いことを挙げている。

(イ) 安心・安全な地域を多くの人が求めており、通学路、信号機、カーブミラーなどの交通安全施設整備、道路拡幅整備や歩道整備、舗装補修整備などの道路環境整備、防犯灯の増設などを望んでいる。

(ウ) 公共交通機関が少ないことや、医療機関が少ないこと、大型スーパーなどが無いこと等から、高齢化とともに生活面での不安を感じている人が多い。

(エ) 多くの行事に取り組んでいることは、肯定的にとらえている人が多いが行事に役員、委員としての参加を苦痛に感じている人が多い。

(2) まちづくりの現状と課題

1) まちづくりの生い立ち

(ア) 千田学区のまちづくりは、1966年(昭和41年)に制定された福山市民憲章の主旨に則り1973年(昭和48年)に発足した、「福山市民運動推進協議会」(1992年から「福山明るいまちづくり協議会」)

に1975年（昭和50年）から所属し、「明るいまちづくり千田学区委員会」として発足した。

- (イ) 委員会は、学区内の各種団体・機関で組織され、公德心豊かな町民精神を育て住みよい健康なまちづくりを推進することを目的とした。具体的な活動として、敬老会、文化祭、千田川クリーンアップ作戦などの諸事業を実施してきた。
- (ウ) 2006年度（平成18年度）からは、福山市からの要請のもと、協働のまちづくりを実践する組織として、「千田学区まちづくり推進委員会」を設立し、「明るいまちづくり千田学区委員会」からの活動を引き継いでいる。
- (エ) 委員会は、町内会をはじめ各種団体の36団体で組織され、総務、文化・スポーツ、生活安全、環境福祉の4専門部会を置き、それぞれの分担事業の企画推進にあたっている。

2) まちづくりの現状

- (ア) 協働のまちづくりについて、約半数の人が肯定的にとらえており、協力してもよいと思っている人が多い。
- (イ) 盆踊り大会、学区スポーツ祭、文化祭などの地域活性化に向けた事業に約85%の人が参加し、参加を通して、学区民相互の絆を深めている。
- (ウ) これらの事業は、内容の変化はあるが、伝統化された事業も多く、地域に定着してきている。
- (エ) 事業実施にあたっては、多くの事業で実行委員会を組織し、団体の協力を求めて取り組んでいる。

3) まちづくりの課題

- (ア) 事業の具体については肯定的な意見が多いが、協働のまちづくりのことをまったく知らないという人が45%あり、事業実施については事業がどのようにして決まっているのか分からないという記述が約半数ある。「協働のまちづくり」「まちづくり事業」に関する情報、活動実態の周知を図り、情報を共有化しておく必要がある。
- (イ) 協働のまちづくりに対する関わりについては、依頼があれば手伝いくらいはしてもよいという人と、忙しくて出来ないという人が3分の1ずつ

である。

「頼まれれば」という方々にどのようにして協力を得るか。

- (ウ) 約30%の人が地域行事はこれ以上必要ではないと答えているが、役員の負担が増大しているということが要因の一つのようである。
一方、講座や子どもを対象とした事業の要望もそれぞれ約15%ある。
- (エ) 行事実施にあたり、魅力ある内容になるよう努め、PRを強化し、来場者を増やすとともに、参加しやすい環境を作っていくことが求められている。
- (オ) 治安に関しては、多数が「普通」もしくは「大変良い」と答えているが「時々不安になる」「良くない」が合わせて18%あり、自由記述にも不安・不満の意見があり対策を求めている。
- (カ) 不安を感じた場合、どこに相談すれば良いか分からないが15%いる。
要因は分からないが対策を取る必要がある。

(3) まちづくりに対する住民の期待

- (ア) まちづくりの優先的な取り組みへの期待は、①高齢者・障がい者の福祉の充実が多く、②防犯・交通安全対策、③健康づくり、④子育ての支援と続いている。
- (イ) まちづくりへの関わりについては、約半数の人が何らかの形で関わってもよいと答えており、今後の活動に期待ができる。
- (ウ) 千田学区の将来については、「災害に強く、犯罪のないまち」であって欲しいと願っている人が最も多く「快適、安全、ふれあいのあるまち」「健康に過ごせる福祉・健康づくりのまち」「にぎわいと優しさあふれるまち」「人として尊敬しあい人権を大切にするまち」など幅広い取り組みを期待している。



おもちゃサロン



古紙回収活動